

えべつ市民活動・協働ネットワーク懇談会の終了に向けて

世話人会代表 高木 玲子

平成15年12月に、江別市からの呼びかけによりスタートしたネットワーク懇談会も36回の会議を重ねてまいりました。

当初は、市内で活動するお互いのNPO・市民活動団体を知ることから始まり、少人数のグループ討議を経て、各団体が抱えている課題を出し合いながら情報交換を進めてまいりました。

その後、団体間同士や行政との協働について講演会や意見交換を進める中、市民活動を進めていくためにはより多くの人達に知らせるための「情報」と、活動の拠点となる「場」の必要性が提起されました。また、自分たちの活動を市民に知らせるために、参加団体が協力しながら「第1回市民活動見本市」を開催し、その後毎年継続してきました。

平成17年1月には、この間の論議のまとめとして「私たちが考える協働」検討報告書を江別市長に提出しました。同時に、「情報」と「場」の必要性について具体的な取り組みが行われました。

【情報の実行委員会】

市民活動団体の情報発信の方法として、江別市の広報誌の活用について市広報広聴課と話し合いが持たれ、懇談会の特集ページを協働で取り組むことや、広報誌の最終ページを市民活動の紙面に活用したいと要望し、一部実現する事が出来ましたが、公共性のある紙面の活用には制限も多くあり課題として受けとめました。

【場の実行委員会】

市民活動団体の場の機能、運営イメージについて意見交換し、さらに候補地探しのため現地調査を行うなど、場（市民活動センター）の実現化に向けて具体的な検討を始めました。

平成17年9月には、「私たちの市民活動センター」の創設にむけての提言書を江別市長に提出するとともに、一部の懇談会メンバーの方たちが「センター準備会」を発足させ、先進事例や候補地調査など、その実現に努力を重ねてまいりました。

また、市民活動センターの創設については、懇談会では規模、機能、運営について様々な意見が出されましたが、最終的には、懇談会の目的として掲げた交流・情報受発信・協働の促進の活動拠点として位置づけました。そして、平成18年9月、江別市の支援を受けて、民設民営方式で「江別市民活動センター・あい」がオープンしました。このセンターは、「センター準備会」がNPO法人化した「えべつ協働ネットワーク」が管理・運営を行っているもので、懇談会と同じ目的を持ち、様々な事業を行っています。

【今後の方向】

ネットワーク懇談会は、3年間にわたり話し合いを重ね、たくさんの方たちと想いを共有し、一つひとつ自分たちのできる事を形にしてきた事が大切な宝となりました。また、この3年間で培った連帯と活動が「江別市民活動センター・あい」の誕生に結びついたと考えております。

今後は、懇談会が目的としていた「交流・情報受発信・協働の促進」をさらに発展させるため、NPO・市民活動団体相互が主体となり、センターを活動の拠点として輪を広げ、江別市と協力・連携を図りながら江別のまちづくりを進められることを願い、ここに『えべつ市民活動・協働ネットワーク懇談会』を終了したいと思います。